

Vol.19(2021) No.04(03/11)L02

COVID-19 治療のためのレムデシビル;最新のシステマティックレビューとメタアナリシス

[Remdesivir for treatment of COVID-19; an updated systematic review and meta-analysis](#)

Rezagholizadeh A, Khiali S, Sarbakhsh P, et al.

【Eur J Pharmacol. 2021 Feb 4;897:173926】- peer reviewed(査読済み)

(要旨)

◇背景

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックは、世界的な健康危機になっている。先頃 FDA が COVID-19 治療薬としてレムデシビルを承認し、レムデシビルが初めて正式承認を受けた治療薬となったことから、COVID-19 患者におけるレムデシビル投与の有効性と安全性を評価するためにシステマティックレビューとメタアナリシスを行った。

◇方法

システマティックな文献検索は、MEDLINE, Google Scholar, Web of Science, Scopus, Science Direct, Cochrane Library, medRxiv, bioRxiv を介し、開始から 2020 年 12 月 22 日まで行った。5 報の無作為化比較試験(RCT)と 5 報の非無作為化介入試験(NRSI)をメタアナリシスに組み入れた。

◇結果

レムデシビル投与は、28 日での回復[RR 1.09;95%信頼区間(CI)[1.04~1.15]], 1~14 日目までの低流量酸素補充(RR 2.88;95%CI[1.80~4.60]), およびフォローアップ期間の 14~28 日目までの侵襲的人工呼吸または体外式膜型人工肺(RR 5.34;95%CI[2.37~12.05])の必要性において、有意な改善に関連していることが示された。重篤有害反応(ADR)の発現リスクは、レムデシビル群の方が比較/対照群よりも有意に低かった(RR 0.75; 95%CI[0.63~0.90])。臨床的改善までの日数(統合した中央値)の差は 2.99(95%CI[2.71~3.28])であったが、感度解析でも有意ではなかった。レムデシビル 5 日間コースと 10 日間コースの臨床成績の比較により、5 日間のレジメンは、10 日間レジメンに比べ、重篤有害事象が少なく、かつ同程度のベネフィットをもたらす可能性があることが明らかになった。本メタアナリシスは、COVID-19 患者でのレムデシビル使用に関する科学的エビデンスについて、最新の評価を行ったものである。さらに正確な結果を得るには、適切にデザインされた十分な RCT の実施が必要である。